

第5回城東学園新たな学園づくり地域検討委員会 概要

| | |
|-----|--|
| 日 時 | 平成30年7月11日（水）午後7時 ～ 午後8時30分 |
| 場 所 | 大東北公民館会議室 |
| 出 席 | 委 員 26人（欠席者4人） 事務局 教育長、教育部長、企画政策課長、学務課長、学校教育課長 企画政策課行革・公共施設マネジメント推進室長 学校教育課指導主事、教育政策室長、教育政策室係長 教育政策室指導主事、教育政策室主任 |

内 容

- 1 開 会
- 2 教育長あいさつ
- 3 委員長あいさつ
- 4 報告事項
 - (1) 第4回地域検討委員会について
 - (2) 城東学園保護者説明会について
※事務局より説明
- 5 協議事項
 - (1) 城東学園における施設の在り方の方向性について
 ※委員長からこれまでの検討委員会での意見整理
 ※掛川市の公共施設マネジメントについて市企画政策課から説明
 - ①市内では、建築から30年以上が経過した老朽化の進行した施設が増えている。
 - ②現状の規模で維持更新をするには多額の経費が必要。
 - ③今後、高齢化が進行することにより扶助費が増加し、公共施設の維持・更新に充てる費用は削減する必要がある。
 - ④学校教育施設は市内の公共施設の4割超を占める（延床面積比）。
 - ⑤施設の統廃合や機能の集約、複合化を図り総保有量を圧縮する。
 - ⑥長寿命化を図るための予防保全に努める。
 - ⑦学校・教育施設においては、計画的な改修、修繕、改築などによる施設の長寿命化を図るとともに、児童・生徒数の変化を踏まえた適正規模、適正配置について検討を進める。

【委員長】

- ・今回と次回で、委員会としての方向性を決めていきたい。今日は、皆さんの個々のお考えを聞き、もし方向性がある程度定まればそれで考えていく。意見が割れるようであれば、また少し考えなくてはならない。いつかは方向性を決めていかなくてはならないので、ここで皆さんの御意見を伺いたい。

※各委員から現時点での意見を発表

A案…分離型小中一貫教育

B1案…小学校のみ統合する小中一貫教育

B2案…小中一体型小中一貫教育

B1案、B2案まで絞り込めなければB案でも可とする。

【各委員】

<A案賛成>

- ①どちらかと言うとA案。子どもの教育を一番に考えると、今の小学校の小規模の中で、子どもと教師が一体となって、生徒のやる気や自分も捨てたものではないというような気持ちを生み出すには、揉まれて競争心を煽るような教育ではなく、自分を支えてくれる人がいるんだということを考えると、通学等も考慮して現状のA案がよいのではないかと考えている。財政面で押し進めるとA案の意見が少なくなってくるのではないかと。資料を見ていると、最初から小中一貫教育ありきで事が進められてきており、そうしなくてはならないというように追い込まれてくるそんな感じを受ける。
- ②今はA案がよいと思っている。いずれはB案だろうなと思っている。

< B案賛成 >

- ①総合的に考えてB案がよいと思う。これからの将来のことを考えると、子どもの人数も減っていくし、校舎も建て替えるとなるとお金もかかる。
- ②今までいろいろ聞いてきて、子どもを持つ親として、B案に賛成。
- ③B案がよいと思う。最終的に自分の子どもが保育園に通っていることもあり、小学校に入った時に他の子たちと一緒にいられるのはよいと思うし、小学校から中学校に上がる時も全員が一緒に教育が統一化されるのであれば、その方がよいと思う。
- ④B案がよいとか、A案がよいとかではなく、現実問題として、掛川市が抱える問題と兼ね合わせて進むとなるとB案しかないのではないかと思う。
- ⑤課題はたくさんあると思うがB案。
- ⑥B案がよいと思う。今までの話しを聞いてきた中では、こちらの方があっているのではないかと思った。
- ⑦B1案がよいと思う。小中がつながることが子どもたちにとって一番メリットがあると思う。
- ⑧B案がいいと思っている。いろいろ問題点はあると思うが、維持管理の費用のことを考えると、建物を減らしていった方が財政的な負担がかからなくなるのでB案だと思う。
- ⑨簡単に言うとB案。子どもの人数が減っている。減っていれば当然、慈善事業でやっている話しではないので、コストに見合った教育を考えた時にはB案しかない。人数が多ければ、確かに競争が生まれる。切磋琢磨していかないと、これからの未来を背負っていく子どもに託すことがなかなか難しいのではないかと思う。
- ⑩B案がよいと思う。小中一貫教育を小学校から見た時に、いろいろな人たちとの交流をとおして、コミュニケーション力を育てていくとなれば、施設としてはB案がよいのではないかと思う。ただ、新しい学校を作った時に、それぞれの地域の、それぞれの学校の持っている母校の香り、地域が持っているよさがそこにある、あるいはその中から新しい文化が出てくる、新しい価値が生まれてくるような、B案にしていきたい。
- ⑪地域も児童にも愛校心が芽生えて、いつのまにか地域の方が草を刈ってくれている等、様々な良さが現在の小規模校の小学校にあると思う。朝礼の移動だけで15分もかかるような大規模校にも良さや課題もある。学校がなくなることの寂しさ、地区がもっと過疎化してしまうのではないかな等、心配をしている地域の方はたくさんいるが、結論的にはB案。児童・生徒の減少の度合いやこの厳しい財政状況を考えてみたら、小規模校の良さと言っている場合ではないんじゃないかという方に強く傾いている。小中一貫で一体型が良いと思っている。高学年の指導は、教員が苦手なこともやらなくてはいけない。例えば、理科や音楽、体育等、一体型であれば、先生方の移動時間もほとんどないので、小学校5～6年生を中心とした教科担任的な指導もできる。また、英語教育も始まるので、中学校と小学校の先生が行き交って、より良い教育もできると思う。社会的な状況を考えると、人間関係がどんどん希薄化している時代なので、さらにIT化が進めば、心と心の繋がりが薄くなっていくと思う。B案みたいな学校になって、子どもたち同士がコミュニケーションのさらなる育成を図って、心を大切にしてほしい。今の小規模校では、どうしても序列化がある。そう言ったデメリットから逃れるためにも、そしてコミュニケーション育成の観点から見ても、一体型しかないのではないかと思っている。
- ⑫社会の状況や予算の面を見る限り、B案でいくしかない判断している。教育上、将来を生きる子どもたちに、どういう力をつけていくかということを考えると、多様化していく社会の中で揉まれていくことの必要性を感じる。ただ、どういう状況であったとしても、子どもたちをどのように教育していくかということを考える必要はある。学校は地域のものであるので、地域の皆さんが、どのような名前になったとしても、私たちの学校であるという思いを大切に、共有して欲しいというのが私の願いである。
- ⑬経済的なことを考えるとB案しかないと思う。母校が無くなる可能性があるので寂しい気がしている。
- ⑭A案にも良い点はたくさんある。現状の小学校も地域に支えていただいたすごく良い学校である。地域とすごく近い関係にある。高学年の責任感が育ち、低学年の安心感が育つという状態にあるので、A案も良いと思うが、総合的に見てB案。とくに、国が言っている適正規模は、12～18学級というのがあるので、1学年2～3学級という形になるので良いのではないかと思う。
- ⑮B案だと思う。ただ、保護者説明会での話しを聞いてみると、土方地区の今の城東中あたりに全部集中していくということで、土方に全部吸収されるという感じがある。中地区の保護者説明会でも、だいたい発言がそういう形で出ている。中小も佐東小も元を正せば嶺学校からきているので、元に戻ると言えば戻るということになる。発想として城東の真ん中、田ヶ池の付近に全部集めるとなれば、また違った意見が出てくるのではないかと思う。
- ⑯B案に賛成。場所を選ぶときに、安全な場所というのを重視して、震災、災害に強い、地盤

のよい所を選ぶように、そこを一番に考えて進めていただきたい。

- ⑰ B案に賛成。地区の方からもいろいろな声や質問を受ける。いつ決まるのか、場所はどこになるのか、と言うような声が多くの方からある。A案にしるB案にしる問題点、課題点は数多くあると思うので、B案ということで決めさせていただいて、後は問題や課題を掘り下げ一つ一つ解決していけばよいのではないかと思う。
- ⑱ 結論から言うと、B案がよいのではないかと思う。ほとんどの地域の方の中には一緒になった方がよいのではないかという思いが頭の中にあるのではないかと思う。個々に小さな問題点はたくさん出てくると思うが、前提は一緒になってほしいという方向だと思う。
- ⑲ 中学校は複数学級あるので、人間関係がうまくいなくてもクラスを替えてということができ安心して暮らせる。今はそう言った問題はないので安心して居るが、そういう環境にあると人間関係的に学校生活を安心して送ることができる。中学校から小学校へ専門の教員を派遣してということについて、近距離でも移動の時間はかかる。例えば城東中から土方小に行くとしても、準備をして荷物を車に積んで行くとすると10分、15分はかかる。授業を2時間するだけでも、前後の1時間ずつが移動で、午前中が全部終わってしまう。一体型であれば、そのまま移動ができるということを考えると、中学校の教員が小学校の高学年に専門的な教育を行うことができるのではないかと思う。そういうことを考えるとB案がよいのではないかと思う。
- ⑳ 人口が減少していくという数字を考えるとB案がよいと思う。100人ちょっとの園児の保育園が、認定こども園では320人になる。いろいろなメリット、デメリットをたくさん考えたが、そういう流れになったということで納得して、子どもたちが楽しく喜んで来てくれる園づくりをしたいと思っている。都会は人口が減っても保育園には自然に子どもが集まってくる。でも田舎は、人口が減っていく中で子どもの数も減ってしまう。魅力ある保育園、入ってみたいと思うような保育園にすることで人が集まる。掛川市が住みよい街県内2位という話しには驚いた。菊川市はすごく人口が増えてきたということを知っていた。掛川市が住みよさで2位になっているのであれば、どんどん人を集めるような学校を作って、地区が違っても行ってみたいと思うような学校やまちづくりをしていったら良いと思って聞いていた。こども園の開園が5年後に延びたということで、5年間かけて小中一貫教育も1つの方向性を作っていたらいいと思う。保育園だけぽつんとどこかにあるのも寂しいので、保育園が小学校、中学校のそばにあるようなまちづくりをして欲しいと思う。
- ㉑ いずれはB案になるのかなと思う。いろいろな思いはあるが、ただ統合する時に何かを新しくしなくてはいけないというふうに考えないで、今の施設を効率よく上手に残して、財源を大事に使っていく方法を議論しながら進めた方がよいと思う。
- ㉒ 新しいことをやっていくべきだと思っている。幼稚園も認定こども園という形になってくるので、現状が悪いとは全然思わないが、少しずつは新しい方向に変わっていくべきではないか。その転換をいつするべきなのか、急にできるのかということも難しいとは思いますが、新しいことを考えていくというのは大事だと思う。急にはできない、大事にしていくべきものもあるのではないかと、というところで揺れてはいる。

<その他>

- ① 皆さんの御意見がB案が多くて、個人的な意見としては嬉しい気持ちがあるのが正直なところである。

情報提供として、こども園について、城東こども園は3年後という案内があったが、ほぼ正式に5年後に延びたという話しがあった。場所についてもこれから検討していくところである。第一候補としては、北グラウンドの南側の田んぼを埋め立てる案、または城東保育園のところ。開園が延びたので、これからさらに議論をすることになる。もしも田んぼを埋め立てるといことになると、埋め立てるだけで数億円のお金がかかる。当然、土地所有者からの土地の買い上げと造成費用、さらに建物を建てるにあたっては大変なお金がかかる。大坂こども園の場合、新築で10億円かかり、城東こども園はそれと同等規模かちょっと大きいと聞いているので、建築費で10億、造成費で3～4億くらいかかるという工事になる。6月の議会の一般質問で、東京女子医大を用途変更して使えば数億円で済むので、そういった方向ではどうかという提案をさせていただいた。これから市の方も考えていくのではないかと思う。そうすれば10億円からの予算で賄うことができるのではないかとと思われる。どうなるかわからないが、可能性はゼロではないと思っている。

城東学園の小中一貫教育について、議会の一般質問で市長に問いかけた。子どもの教育にとって一番良いもの考えるべきなのか、子どもの未来にとって一番良いもの考えるべきなのかということ自分で自分の気持ちを市長に問いかけた。私は子どもの未来にとってどうあるべきかということを考えている。教育論だけで言ったら、私には結論はわからない。小規模校が良いのか、大規模校が良いのか、いろいろ調べて勉強してみても、どちらも良いし、どちらも悪いところがあるし、わからないというのが結論。ただ、皆さんがおっしゃるようにお

金の面を踏まえて考えなくてはいけない。市の財政がどんな状況か考えなくてはいけないので、早くこの話をして欲しいということを伝えてきた。今回は、市長部局と教育部局が一体となって、話を進めなければ、この話しはまとまらないと私は思っているので、今回お金の話もしていただいて、皆さんの御意見を伺って、かなりすっきりした気持ちでいる。8月の末に住民の方々への説明会があるということなので、そこでどうなるのか、非常に気になるころではあるが、これを機会にさらに推進できればと思っている。

【委員長】

- ・全員からそれぞれの御意見を出していただいた。他の委員の御意見を聞いて、自分なりに感想なり御意見を新たなものにしたりした方もあったと思う。私の個人的な感想としては、今いる子ども達が、今後将来にわたって社会でたくましく生きていく、そのために学校がどうあるべきか、その観点がとても大事だと思った。学校が地域の太陽であるために、変わらないために変わる、逆説的な言い方になるが、そうしたことも一つ大事なことであるかなと思った。
- ・御意見としては、皆さんご承知のとおりほとんどがB案ということだったので、方向性としてはB案ということで、今日はこの辺りにしたいと思う。次回を最終結論にしたいと思う。
- ・現実に一貫教育をしている学校、昨年是一部の方が庄内学園を訪問させていただいたりしているが、ちょっと近隣にそういうところがないので、城東学園がモデルケースで先進的なケースになるのではないかと思う。一方で大規模校は市内にいくつかあると思うので、そちらを見ながら大規模校の子どもの様子を見ながら、そこで話し合いをして決定していきたいと考えている。

6 連絡事項

- ・今後の予定について
 - (1) 第6回地域検討委員会 平成30年9月4日(火) 13:30～ 中央小
 - (2) 新たな学園づくり地域意見交換会
 - ・土方地区 平成30年8月29日(水) 19:00～20:30 土方小体育館
 - ・佐東地区 平成30年8月30日(木) 19:00～20:30 佐東小体育館
 - ・中地区 平成30年9月1日(土) 13:30～15:00 中地区防災センター

7 閉会